

【宮城県】

「地域就職氷河期世代支援加速化交付金」事業の取組に係る検証結果について

みやぎ就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム第7回会議において、令和4年度に実施した事業について検証を行った。

1 日 時：令和5年6月15日（木）10：00～12：00

2 場 所：仙台第4合同庁舎2階共用会議室

3 出席者：県内の行政、経済・労働・支援団体等の15機関

4 令和4年度の取組状況及び検証結果（宮城県分）

(1) 社会気運の醸成・効果的な周知広報

計画の概要	実績等
・就職氷河期世代支援に関するプラットフォーム構成機関の取組について、県ホームページやSNS等により随時周知	・みやぎジョブカフェのホームページ及びSNSを活用し当該プラットフォーム関連記事を随時掲載 (国・県・市の相談会やセミナー等の各種情報等)
検証結果	
・当プラットフォームの行政機関の構成員である、宮城労働局、東北経済産業局、仙台市、宮城県の各担当者による打合せにおいて、イベント等の共催や相互周知・広報など、連携しながら支援の充実を図っていくことを申し合わせており、コロナ禍においても、就職氷河期世代への支援を円滑に進めるため、関係機関の連携による周知広報等は大変有効と評価している。	

(2) 不安定な就労状態にある方

計画の概要	実績等
・県の就職支援施設における平日夜間や土曜日における相談時間の延長 ・就職氷河期世代の採用に意欲的な企業を集めた企業説明会の開催	・県就職支援施設における就職氷河期世代相談件数 747件 ・合同企業説明会 県内各地で26回開催 就職氷河期世代285名参加 ・県就職支援施設における就職氷河期世代就職者数 436名 (正規174、非正規262)
検証結果	
・県の就職支援機関における正規雇用就職者数について、コロナ禍の影響により、企業の採用が低調であったほか、支援対象者も就職活動を控える傾向にあったことから、目標達成には至らなかった。	

- ・合同企業説明会の参加者数については、これまでは就職氷河期世代を対象とした合同企業説明会の開催方法や周知等のノウハウが不足していたことから、当プラットフォーム構成員等の関連機関との連携を強化し、合同企業説明会等の共催による企業の出展数の拡大や在職中の方も参加しやすい土曜日を開催日として設定したほか、各種広報媒体による手厚い広報・周知をおこなった。結果として、前年度より参加者増となり就職氷河期世代と企業とのマッチング機会を確保したが、目標を下回った。
- ・このため、相談窓口や合同企業説明会等への参加を促す一層の工夫が必要である。
- ・具体的には、より一層関係機関の連携を強化し、合同企業説明会等の共催、開催時期や曜日の工夫、手厚い広報・周知を実施し参加者の増加を目指す。その結果、就職氷河期世代と企業とのマッチングの機会が拡大され、正規雇用就職者数の増加も期待できる。

(3)長期にわたり無業の状態にある方

(4)社会参加に向けた支援を必要とする方（ひきこもりの方等）

計画の概要	実績等
<ul style="list-style-type: none"> ・「長期間無業者」や「社会参加に向けた支援が必要な方」を対象に、体験前トレーニングとフォローアップを組み合わせた就業体験の実施 ・生活相談から就労相談まで幅広く対応したワンストップの相談会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験参加者 10名 うち就職者2名（正規0、非正規2） 受入企業 9社 ・相談会開催回数 85回 ・相談件数 96件

検証結果

- ・コロナ禍の影響により、企業側の受入協力を得ることが難しく、就業体験の実施件数が伸びず、参加者の正規雇用につながる機会を十分に確保することができなかった。
- ・働くことに不安を感じている方は、直前で体験をキャンセルしてしまうことも多いため、支援担当者が体験先に同行するなど、マンツーマンで寄り添うことで、参加者のモチベーションの維持や不安の解消を図り、1件ごとのサポートをより手厚くすることで、参加者の社会参加促進に寄与した。
- ・就業体験事業の実績を増加するため、更なる誘導策が必要である。
- ・具体的には、これまでのコロナ禍では企業側の協力を得ることが困難であったが、社会経済活動が再開してきており、一層の協力企業の掘り起こしを行い、就業体験の実施件数を増やし、参加者の正規雇用につながる機会を確保する。

5 全体検証

新型コロナウイルス感染症の影響下にありながら、各関係機関が目標達成に向けて工夫、試行錯誤しながら取り組んでいる。目標達成に向けて順調な取組、やや遅れている取組もあるものの、全体として概ね順調に推移していると総括される。